

平成21年度林業研究所の試験研究評価

林業研究所試験研究評価実施要領に基づき、平成21年度に実施した林業研究所試験研究評価委員会の内容は次のとおりでした。

委員

- ・三重大学名誉教授
- ・建築設計士事務所代表取締役
- ・林業経営者
- ・三重大学生物資源学部講師　　の4名

1. 平成21年度第1回試験研究評価委員会

開催日：平成21年10月7日（水）　場所：林業研究所

内容：事前評価及び中間評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

事前評価及び中間評価課題とも、研究担当者がプレゼンテーションを行い、質疑応答のあと、評価方法内規に基づき20点満点で採点されました。平均点が12点を下回るものについては、林業研究所長が研究課題の不採択、中止及び計画の変更等を検討することになります。評価対象課題と評価結果及び出された意見は以下のとおりです。

(事前評価)

- | | |
|--|---------------|
| ① 商品化を目指したきのこ栽培技術の開発 | 評価平均点 17.00 点 |
| 出された意見：農林家の収益向上へつながる技術開発を行うこと。 味覚、薬理効果に関する科学的データの収集も重要。 | |
| ② 造林初期における保育コスト低減技術の開発 | 評価平均点 17.50 点 |
| 出された意見：経験で進めてきたことをデータで裏付けることには意味がある。 育林だけでなく、造材、建築にまでつながる技術開発が必要。 | |

(中間評価)

- | | |
|---|---------------|
| ① スギ梁桁材の効率的乾燥技術に関する研究 | 評価平均点 13.50 点 |
| 出された意見：ドラインゲットにこだわらずに天然乾燥、人工乾燥との組合せの検討を。 初期水分、年輪幅等のデータと乾燥の仕上がりの関係も調べてみてはどうか。 | |
| ② 管理不足林における間伐の効果に関する研究 | 評価平均点 17.00 点 |
| 出された意見：間伐方法による効果の違いがわかると良い。 間伐の効果がデータに基づき整理されることを期待する。 | |

2. 平成21年度第2回試験研究評価委員会

開催日：平成22年3月5日（金） 場所：林業研究所

内容：事後評価

研究評価委員会における4人の評価委員による評価結果の概要は、以下のとおりです。

評価対象課題

① ハタケシメジ新品種確立と現場移転技術の開発 評価平均点 18.25 点

出された意見：行政、生産者、販売者が連携して普及を進めることが必要。

健康面での機能等ハタケシメジの価値を市場に理解してもらえば、少々高くても売れる。

小規模な農林家でも取り組めると言う点も評価できる。

② 簡易施設を利用したきのこ栽培技術の開発 評価平均点 17.00 点

出された意見：腐植の特性と効果についての探求が望まれる。

ハタケシメジと同様、その価値を消費者に伝えることが大切。

選抜されたヒラタケ菌の普及に努めて欲しい。

オオイチョウタケの研究は今後に期待する。